

チュートリアル課題 むくみより仕事が優先

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033211

2018年度 Segment. 7

課 題 No.3

課題名：むくみより仕事が優先

課題作成者：産婦人科学
母子総合医療センター

中林 章
今井 憲



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

美穂さんは、大きなプロジェクトを抱えており、妊娠発覚後も仕事を継続し、夜遅くまで残業を行うことがしばしばあった。最近、手のむくみが気になり、夫からも顔がむくんでいるといわれていたが、仕事の都合がつかず妊婦健診は妊娠26週が最後であった。夫に病院受診を勧められたため、妊娠31週で来院した。

医師 「妊婦健診の間隔がだいぶ空きましたね。」

美穂さん 「仕事が忙しく、予約も取れなかったので、来ることができませんでした。」

医師 「何か変わったことはありませんか？」

美穂さん 「手足が浮腫むようになり、先日夫から顔がむくんでいるといわれました。」

医師 「そうですか。では、いつも通り、血圧、体重、尿検査を行いましょう。」

シート2

- 医師 「血圧が高いですね。尿蛋白も陽性だし、すぐ入院ですね。」
- 美穂さん 「えっ、まだ、妊娠31週なのに入院ですか？しかも今日すぐに入院ですか？」
- 医師 「血液検査の結果次第では、今日赤ちゃんを産ませることもあります。」
- 美穂さん 「えーっ、まだ陣痛来ていないですよ。」
- 医師 「妊娠の継続が望ましくない場合は帝王切開術を行います。」
- 美穂さん 「お腹を切らなくちゃいけないですか？私、普通に産みたいです。」
- 医師 「血液検査の結果で判断しますね。」
- 美穂さん 「ところで、赤ちゃんは元気ですか？」
- 医師 「超音波検査では少し小さめですね。入院後、別の検査も行いますね。」
- 美穂さん 「・・・・・・・・」

シート3

美穂さんは、緊急で帝王切開が行われ出産しました。

在胎期間は31週5日、出生体重は1290g、身長は41.0cmの男児でした。体重は在胎期間にしては小さめでした。出生後1分後、5分後の赤ちゃんの状態はそれぞれ以下の通りでした。

1分後：呼吸はありましたが、泣いてはいませんでした。心拍数は80回/分、手足は少し曲げていました。口腔内と鼻腔内を吸引したとき顔をしかめました。また、全身が紫色でした。分娩に立ちあつた新生児科医師はただちに蘇生を開始し、バッグマスクを用いて人工呼吸を数回行いました。

5分後：心拍数は150回/分、手足はバタバタさせるようになりました。口腔内を吸引するとせき込みました。しかし全身は紫色のままで、泣き声が強くないので気管挿管が行われました。

夜、美穂さんは駆け付けた夫とようやく面会できました。

夫 「大丈夫か」

美穂さん 「1日で入院、帝王切開といろいろありすぎて混乱したわ。
赤ちゃんは大丈夫かしら」

シート4

赤ちゃんは出生後すぐにNICUに入院になりました。夫婦が揃ったところで新生児科医師から説明がありました。

医師 「ご出産おめでとうございます。赤ちゃんは予定日より随分早く、体重も小さく生まれました。肺の未熟性が強いので、人工呼吸器と薬による治療を開始しました。」

赤ちゃんは、口にチューブが挿入されていて、機械に繋がっていました。心拍数 165回/分、血圧 52/20 mmHg、呼吸数 70回/分、体温 37.2℃、SpO2 94%で、眠っているようでした。

医師 「出生後しばらくは赤ちゃんにとって不安定な時期なので、心不全、出血、感染症などのリスクがあります。今のところ、重篤な合併症はなさそうです。」

美穂さんは、思っていたよりも赤ちゃんが元気でほっとしましたが、重篤な合併症が起きてしまったら将来どうになってしまうのか不安になりました。

シート5

出生後翌々日（日齢2）に美穂さんが面会に行ったとき、赤ちゃんは青い光を浴びていました。

医師 「皮膚の黄色味が強くなったので治療を始めています。心不全の原因となる血管は自然に閉じてきましたので、薬による治療は行わず経過を見ています。全身状態が安定しているので、母乳を始めましょう。」

美穂さんは色々な治療を受けている赤ちゃんの姿を見て申し訳ない気持ちになりましたが、母乳の話聞いて嬉しくなりました。

シート6

幸い、入院経過中に赤ちゃんに重篤な合併症はありませんでした。
美穂さんの赤ちゃんは圭ちゃんと名付けられ、予定日に体重2360gで退院となりました。

美穂さん 「退院は嬉しいけど、圭ちゃんは幼稚園に行ったり、普通の学校に行けるのかしら？」

普段夫は不在で、上の子もいるため、退院後は祖母の助けを借りながら実家で育児を行うことにしました。圭ちゃんに重篤な合併症はありませんでしたが、将来の成長発達が少し心配です。